

初めてのFDセミナー

都市教養学部理工学系電気電子工学コース・助教 田村 健一

都市教養学部理工学系電気電子工学コース・助教 白井 直機

私は、昨年9月に大学院の博士課程を修了し、その翌月の10月に本学に着任したばかりの新人である。今回のFD・SDセミナーには新人研修として参加した。このセミナーは、二日間にわたって南大沢キャンパスからほど近い大学セミナーハウスで開催された。二日目は授業があったため、一日目だけ参加することにした。

最初の講演は、この分野の第一人者であられる東京大学名誉教授の天野先生の講演で、演題は「公立大学の目指すもの」であった。公立大学の歴史からはじまり、アメリカの州立大学を一つのモデルとして、今後の公立大学の在り方について述べられた。その中で、大学全入時代をむかえるにあたり、公立大学が生き残っていくためには、国立大学や私立大学にはない独自の個性を地域に認められる形で発揮していく必要があるというお話が印象に残った。

続いて、大橋先生から「首都大学東京の課題」について講演があった。本学の理念に基づいて設定された教育目標を達成する上での課題が示された。次に保阪先生から「全学共通科目のねらい」について講演があった。全学共通科目に関するこれまでの取り組み、問題点と今後の課題が示された。この二つの講演では全学共通科目に関する点が共通していた。まだ着任して間もない無知な私にとって、全学共通科目に関する認識が強まった点が大変有意義であった。また、先生方の中で活発な議論がおこなわれ、セミナーに参加されている先生方のFDに対する意欲を感じることができた。

一日目の最後の講演として、岡先生から「今日の学生気質—学生対応をめぐる」—というテーマで最近の若者の気持ちを理解するためのヒントが述べられた。最悪の事態を未然に防ぐためにも、教員側は常に学生の様子に気を配って対応していく必要があると思った。同時に、学生の気質は個人ではもちろん時代によっても変わるので、その対応も適応的かつ柔軟なものではないといけないと思った。一日目のみではあるが、今回のセミナーの中でこのテーマが現在の私にとって最も身近なことであり、常に意識しなければならないことだと思った。

このセミナーを通じて、今後大学を取り巻く環境は変わっていき、大学はそれに対応するために変わっていかねばならない状況にあることを認識できた。このような状況のなかで、学生そして我々教職員にとってより良い大学にしていくためには、教職員は同じ職場で働く仲間として一致団結して、学生の声によく耳を傾け、積極的にFD・SDに関わっていくべきだと思った。まだ、大学運営に直接かかわる立場にはないが、日々これらの問題意識をもって職務に励んでいくことが、今後大学人として生きていくためにも大事であると思った。(文責・田村健一)

正直なところ、ここに感想文を書けと言われることを想定していなかったため、あまり真面目に話を聞いていなかったというのが本音であるが、今回のセミナーを通じて、首都大学東京とはどんな大学かを少しではあるが感じることはできた。大学という組織は、教員だけでなく事務職員の方々の支えがあってこそ、私たち教員が円滑に教育・研究活動ができていくことを実感した。「公立大学」と言われても、私自身もこれまで意識したことはなかったし、世間一般でも国公立大学で一つのくくりとして認識されていると思うが、公立大学・特に東京都にある公立大学ならではの特色を生かした色々な取り組みが今後も様々な形でなされればと思う。首都大学東京は、優秀な学生が全国から集まってくる。そういった優秀な学生に対して、教員たちは学生たちに十分な学習・研究環境を整備して教育するとともに、彼らの能力を生かして研究成果を上げる責務があると認識している。今回のセミナーで、そういった学生たちのための講義のプログラムや、相談窓口についても知ることができた。夕食が予想以上に豪華だったことについては、驚いた。事務職員の方たちと交流をもてた点についても、貴重な体験であった。個人的な希望としては、“将来に向けての検討”事項にあった「食堂の拡充」が早急に実現されればと思う。以上、稚拙で大変恐縮であるが、今回のセミナーの感想を結ぶ。(文責・白井直機)